

HAGIHARA REPORT

2023



創業以来、変わらぬ使命で 人々の暮らしを豊かに

人も企業も生きているのではなく、生かされています。
企業にはそれぞれこの世にあって
果たすべき使命・役割があるのです。
これからも萩原工業は、フラットヤーン技術が
生み出す製品や関連機械を通じて、
世の中の人々がより安全で快適に、
そして効率的に経済活動が出来るように努力いたします。
人と製品が活性し続ける企業、それが萩原工業です。

CONTENTS

SECTION 1	プロフィール	
	3 萩原工業のあゆみ	
	5 トップメッセージ	
SECTION 2	戦略	
	7 「深化」と「探索」	13 具現化力
	9 技術力	15 製品・サービス一覧
	11 開拓力	
SECTION 3	サステナビリティ	
	17 萩原工業とサステナビリティ	
	19 環境への取り組み	
	21 社会への取り組み	
SECTION 4	ガバナンス・経営基盤	
	23 ガバナンスへの取り組み	
	25 中期経営計画	
	27 経営資源	
SECTION 5	企業情報	
	29 5カ年財務・非財務サマリー	
	33 国内・海外拠点一覧/株式情報・会社概要	



編集方針

HAGIHARA REPORT 2023は、ステークホルダーの皆様に、萩原工業グループの事業やCSR活動についてわかりやすく報告することを目的として作成しました。

本レポートを通じて萩原工業グループを一層ご理解いただき、ステークホルダーの皆様と企業価値向上に向けた対話の機会を創出していきたいと考えています。

●対象期間

2023年10月期
(2022年11月1日～2023年10月31日)
※一部、上記期間外の情報も含んでいます。

●対象組織

萩原工業株式会社
及び子会社

●発行時期

2024年4月



表紙について

右上がりに伸びるフラットヤーン。その技術の持つ可能性から新たな価値を編み出し、世界に貢献できる製品を届けていきたいという想いを表現しています。

●将来の見通し等に関する記述

本レポートには、萩原工業グループの過去と現在の事実だけでなく、発行時点における計画や見通し等の将来予測が含まれています。この将来予測は、記述した時点で入手した情報に基づいた判断であり、今後のさまざまな要因によって、将来の事業活動の結果や事象が予測とは異なったものとなる可能性があります。



1892 萩原商店創業

1962

二代目 萩原賦一が、花ござタテ糸用PEモノフィラメント製造で萩原工業創業

1964

フラットヤーン開発
インライン湯浴延伸方式

1970

米麦袋用フラットヤーン製造
東京営業所開設

1974

ブルーシート・糸・織・ラミ業界初
一貫生産工場
タービー工場竣工

1980

土のう袋無人加工機完成
タービーシート省人化加工機完成

1981

マシニングセンター完備
プラント製造工場竣工

1994

紙スリッター上市

1995

インドネシア子会社創業

世の中に役立ってきた歴史、未来への新たな可能性

2000

大証二部株式上場

2001

東証二部株式上場

2003

中国青島子会社竣工
SAP-R/3始動
損益システム充実化

2004

上海設計事務所開設

2010

第三者割当
公募増資実施

2012

インドネシア子会社
第二工場竣工

2013

創立50周年
第三者割当公募増資実施

2014

東証一部株式上場

2022

東証プライム市場移行
ハラグアイ子会社設立

事業の礎

1960

1965

フラットヤーン生産大革新
熱板延伸方式特許取得
ワインダー TS36鳥居鐵工所と共同開発

1966

フラットヤーン製造装置初輸出
台湾新生製麻社

1970

1976

インドネシア国営肥料会社製袋
一貫大型プラント輸出

新規事業の創出

1980

1981～84

高性能フラットヤーン製造関連機
械の連続的開発上市、輸出拡大

1989

カーペット基布一貫
里庄工場竣工

1990

1996

かようアイランド(賀陽工
場)竣工
バルチップF 上市

グローバル化への対応

2000

2005

機械事業国際化
上海子会社設立
設計・部品調達・組立

2007

エンジニアリング事業
新工場・新事務所竣工

2009

賀陽工場一貫工場再構築

2010

2018

第8回「日本でいちばん大切にしたい会社」大賞経済産業大臣賞受賞
バルチップ子会社設立
海外代理店EPC社買収
東洋平成ポリマー株式会社買収

2019

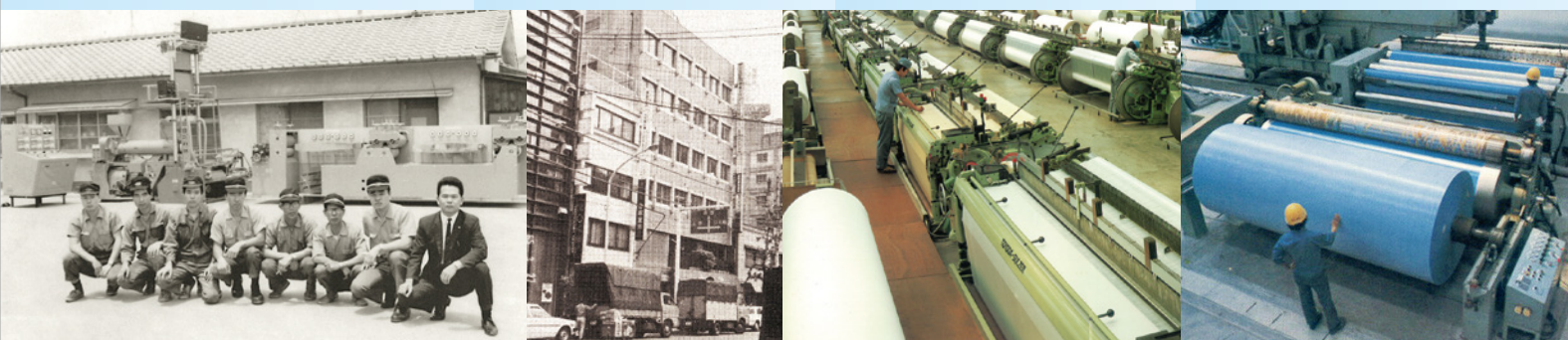
タイ子会社設立

SDGs達成に向けて

2020

2023

中国青島子会社清算
テキサス子会社設立
笠岡工場新設
金属箔用スリッターに
関する技術等を譲受



企業スピリット

おもしろい
直ぐやってみよう

「おもしろい!一緒にすぐやってみよう」という、創業者 二代目萩原賦一の口癖。創業から60年を超えた今でも、会社全体のスピリットとして脈々と活き、社員全体の口癖になっています。

経営理念

萩原工業はフラットヤーン技術を
大事にしながら常に変革し続け、
世のため人のために役立つ会社であろう。

社 是

- 一、萩原工業は業界をリードする
- 一、萩原工業は信用に生命をかける
- 一、萩原工業は恩義を忘れない
- 一、萩原工業の社員は創意を尚び、
自己の責任を果たすことに喜びを持つ

コーポレートスローガン

ハミダセ、アミダセ。

世の中に既存しているものが常識だという固定概念は持たず、岡山というフィールドをハミダして世界に貢献できる製品を届けたい、そのために新たな素材・技術・工法・製品をアミダしていきたい。そんな想いをコーポレートスローガンである「ハミダセ、アミダセ。」に込めています。

成長戦略の加速と サステナブルな 社会の実現に向けて

代表取締役社長

浅野 和志

Kazushi ASANO

TOP MESSAGE

変化が激しく、お客様のニーズが多様化する現在にあって、さらに成長・発展するためにはこれまで以上に当たり前を超える新技術を編み出し、新たな価値を秘めた多種多様な製品を製造し、国内外にそれらの販路を開拓していかなくてはなりません。常識を超えることは簡単ではありませんが、コーポレートスローガンの「ハミダセ、アミダセ。」を社員の一人ひとりがしっかりと意識し、実現できるような社風づくりに取り組んでまいります。

さらなる進化・成長に向けた取り組み

新工場の稼働と新技術獲得 グローバル展開で飛躍を目指す

萩原工業は、2022年12月に新中期経営計画を策定・発表しました。その1年目にあたる2023年10月期には、事業環境に対応するための2つのv字回復戦略と、「技術を、磨く。」「製品を、広げる。」「市場を、創る。」「社員の成長と幸福を、伸ばす。」という4つのJump戦略に沿って、さまざまなことにチャレンジしました。

v字回復戦略で掲げた「製品競争力強化」に向けて2023年8月に稼働させたのが、笠岡の新工場です。これまで私たちは、糸を作り、織物にして、ラミネートなどの加工を施したブルーシートを最終製品として販売してきました。しかし、お客様が本当に欲しがっているのはどのようなシートなのかを考え、それを最終製品にすることも当社の使命。いろいろな最終加工ができる設備と十分な作業スペースを備えた笠岡の新工場が稼働したことで、シートを立体的に縫製したボックスカバーをはじめ、お客様が望む新たな形の製品を製造できるようになりました。また、笠岡工場には幅5メートルまでのシートに対応した

インクジェット印刷機も導入。国内で唯一のこの印刷機によって、これまで難しいとされていたポリエチレンシートやメッシュシートへの印刷が可能となったのです。シートの製造から最終加工までをワンストップで行うことで実現したリードタイムの短縮は、私たちのみならずお客様にとっても有益です。「エンジニアリング事業の最適生産」にも取り組みました。昨年より、世界的な自動車部品メーカーの国内企業と技術提携し、機械の組み立てを委託するなど、生産拠点の拡大に取り組んでいます。また、エンジニアリング事業の海外拠点のひとつである上海工場は、現地の優秀な設計要員を雇用でき、そこで開催される国際的な展示会に出展できることから存続させています。

Jump戦略の中で力を注いだひとつが、「市場を、創る。」です。ものづくりは、使ってくれる地で行わなくては市場を広げられないという考えから、2023年9月、南米のパラグアイ共和国にコンクリート補強繊維のバルチップを製造する工場を開設しました。パラグアイは未舗装の道路が多く、コンクリート消費量の増加も予想される地。南米でのニーズは拡大すると考えています。また、パラグアイには日本語が通じる日系2世、3世が多いため、その地だからこそ正しい情報を得られやすく、現地での雇用も順調です。これまでバルチップはインドネシアで

製造して世界中に輸出していました。コロナ禍を機に輸送用の船の確保が難しくなり船賃も高騰したので、南米に製造拠点ができ、輸送のムダを省けたことも大きいと思っています。また、今年は里庄工場で製造した野菜袋用のメルタッククロスを販売している米国に新設した工場を稼働させる予定です。その開設準備を通して現地に溶け込んだことで、競合していた台湾メーカーからの調達当社製に切り替わりました。

「技術を、磨く。」という点では、主力製品のスリッターがこれまで対応していなかった金属箔を切る技術を他社から買い受けました。スリッターはフィルムや紙などを繰り出して切り、巻き取る機械。金属箔の中には違う方向に裂けやすいものや、ちょっとしたずれでシワがよるものなどがあるため、これまで製造を見合わせていたのです。しかし今回、新たな技術を得たことで、金属箔スリッターの分野にも参入できました。

今後は、コーポレートスローガンの「ハミダセ、アミダセ。」の精神で、常識の枠にとられない製品やこれまでにない機能を有した機械を生み出し、他社が踏み入れない地にも足をのばして、さらなる飛躍を目指します。

サステナビリティへの取り組み

資源を、人を、大切にすることで サステナビリティを追求

化石燃料を原料とするプラスチック製品を扱う企業として、限りある資源を大切に使うべく、使用済みのブルーシートを回収して新しいブルーシートに再生する水平リサイクルプロジェクトなど、さまざまな取り組みを行っています。

2023年には、従来はまっ黒い製品にしか再生できなかった食品用フィルムのリサイクルを大きく変える取り組みを、東洋インキ株式会社、相川鉄工株式会社とともにスタートさせました。東洋インキのフィルムとインク層をわける技術、相川鉄工の叩解技術、そして当社の不純物を取り除く技術と再生ペレット製造のノウハウ。三社の得意を集結させたことで、これまでリサイクル後の用途が限られていた食品用フィルムを、さまざまな製品へと生まれ変わらせることが可能となりました。

社会に貢献したいとの思いから、全国の自治体と防災協定を結んでいます。そのきっかけとなったのは、2000年の鳥取県



西部地震。復興活動を進める鳥取県から「萩原のブルーシートはすぐに穴が空く」とクレームが入ったのです。すぐに社員を派遣すると当社の製品ではなく輸入品であると判明し、すべてのブルーシートを長持ちする当社製に切り替えてくれました。それを機に、使用期間に合う選び方やリサイクルの可否などブルーシートに関する正しい知識を伝えるために、多くの地方自治体を訪ねるようになりました。それが防災協定へとつながったのです。少しでも被災した方々の助けになるよう、今後もこの協定を広めていきたいと思っています。

サステナブルな会社にしていくには、「社員の成長と幸福を、伸ばす」ことが重要です。手当などの処遇や企業主導型保育所の開園といった福利厚生の改善も行ってきましたが、より大切なのは社員が楽しく働ける環境だと考えています。そこで、岡山大学、大原美術館と連携し、心理的安全性（自分の意見や気持ちを安心して表現できる状態）を整える取り組みをスタートさせました。そのひとつが、ストレスチェックと大原美術館の芸術鑑賞コースを組み合わせた研修です。観賞後に参加者が互いに感想などを述べあいコミュニケーションを図ることが心理的安全性につながるのではないかと推測しています。また、私は働きがい成長につながり、幸福感をもたらすと確信しています。たとえば、海外出張での経験を通して仕事への愛着を深めたり、仕事への気づきを得た社員は、帰国後、誰もが目を輝かせています。そうした機会をつくるのも会社としての務め。

コロナ禍の3年間は中止していましたが、これからは積極的に国内の若い社員を海外に送り出すとともに、海外の現地社員を日本に招く予定です。

萩原工業の使命と目標

製品はもちろん、会社自体も 世のため人のために役立つ存在に

萩原工業の使命は、世のため人のために役立つ製品をつくり続けることに尽きますし、何年、何十年経とうと変えてはいけないことです。そして、萩原工業自体も世のため人のために役立つ会社でなければなりません。地域や国のために税金を納め、地域に住むみなさんのために雇用を生み出し、お客様や取引先のために製品をつくり続ける。さらに、社員とその家族の幸福を支え、株主に利益をもたらす。そんな存在であり続けるために、努力を重ねていかねばならないと強く思っています。

近年、少子化による人手不足が社会課題となっています。当社では、その解決手段のひとつとして女性の雇用を増やしていきたい、そうすることで地元で働きたいと願いつつ都会へと出ていく女性たちの受け皿になりたいと切望しています。一方で、工場が女性が働くことや女性が交替勤務につくことは無理といった思い込みが現場に残るのも事実。誰もが働きやすい職場環境を整えるとともに、「ハミダセ、アミダセ。」の精神で無意識の思い込みや偏見を打破することが目下の目標です。

萩原工業のものづくりを支える 「深化」と「探索」

EXPLOIT

深 化

既存領域の拡大、強化

創業60年を超える歴史の中で、既存事業である合成樹脂事業と機械事業の両事業において、お客様の声を大切にしながら各製品の品質改善や性能向上だけでなく、業務の効率化や最適化にも努めてまいりました。

これからも「フラットヤーン技術」を核に据えた事業分野におけるスペシャリストとして、安定性・効率性が高い経営を目指してまいります。

技術力

P9-10

新たな可能性を生み出す

コア・コンピタンス(4つの中核技術:切る・伸ばす・巻く・織る)

フラットヤーン技術を基盤とした製造、ものづくり

バルチップなどの独自の開発技術

機械・設備を設計・製造するエンジニアリング事業

基礎研究、基盤技術の蓄積

具現化力

P13-14

必要とされる製品を形にする

幅広いジャンルへの製品開発

安定した製造体制

【企業のあるべき姿】イノベーション、持続的成長

EXPLORE

探 索

新たな価値、新製品の創出

コーポレートスローガンの「ハミダセ、アミダセ。」のように、既存の枠を飛び出し、新しいイノベーションを起こすことをモットーにものづくりに向き合っております。

新たな挑戦には失敗がつきものですが、企業スピリットである「おもしろえ直ぐやってみよう」という、失敗を許容し諦めないマインドセットが不可欠だと考え、チャレンジを重視し、リスクテイクしながら新たな可能性を模索してまいります。

開拓力

P11-12

社会のニーズを見つける

新規マーケットの開拓

積極的な展示会出展

ランチェスター戦略を取り入れた営業

グローバル展開の実践

現場に根ざした市場調査(顧客ニーズの把握)

データに基づいた科学的分析

強固なサプライチェーン

新たなブランドの創出

【社会への貢献】人々の生活に役立つ製品の創造、供給

P15-16

新たな可能性を生み出す

技術力

あなたの暮らしを支えるフラットヤーン

ポリエチレン、ポリプロピレンのフィルムを短冊状に切断し、延伸することで作られる、軽くて強い平らな糸「フラットヤーン」。フラットヤーン技術はあらゆるシーンで利用され、あなたの暮らしを支えています。

「切る、伸ばす、巻く、織る」の中核技術

萩原工業を長らく支え、これからも中心となる技術が「切る、伸ばす、巻く、織る」という技術。この中核技術を中心に、事業を展開する経営を大切にしてきました。中核技術を深耕させ、様々な付加価値を加えることで、競争力・技術力を高めています。

CORE COMPETENCE コア・コンピタンス

切る

ポリエチレン、ポリプロピレンのフィルムをスリット（短冊状に切断）する技術。



伸ばす

切断されたフィルムを延伸する技術。延伸することで強い糸になる。



織る

フラットヤーンからさまざまな用途のシートや梱包材を織る技術。



巻く

出来上がった糸を効率的に巻き取る技術。



暮らしの様々なシーンで使われている商品へ

防災



建築・土木



農業・畜産



生活雑貨



フラットヤーン モノフィラメント

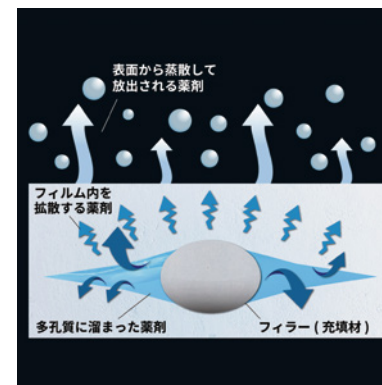
萩原工業が開発した独自の技術

レイシス | ゼロ次放出®を可能にする技術



多孔質フィルムに薬剤を浸み込ませ「放出量」と「放出時間」を制御する技術です。これにより、ガス化した薬剤濃度を常に安定的に保持する理想的なゼロ次放出を実現します。

新規ユーザーが保有する多様な薬剤、製品、技術と「レイシス」を組み合わせ、新たな価値を共創します。



バルチップ | 繊維をコンクリートに混ぜて補強



長年培った合成樹脂繊維製造の知見より、鉄を代替する強靱な繊維を製造しています。

開発した繊維を即座に各種コンクリート試験で検証できる社内ラボ体制を構築。また、国内外の研究機関や大学と提携し、更なる用途開発や実証データの蓄積に取り組んでいます。



設計からプログラム、組立まで一貫製造を行うエンジニアリング事業

エンジニアリング事業部門では受注生産を基本としており、お客様のご要望を図面上に反映するために設計部門に多くの技術者を擁しています。中核技術であるロールからロールへのウェブ搬送と巻取技術については、常設のテスト機を利用した検証による材料適性を担保しています。

また樹脂関連製品におきましても、各種テスト機による検証を踏まえて、お客様の材料にあった機器やプロセスを提案することを基本としています。お客様の管理手法に合わせたデータ抽出や、現場での使い勝手改善をタイムリーに行うために、制御系も含めてプログラムを自社で作成しております。

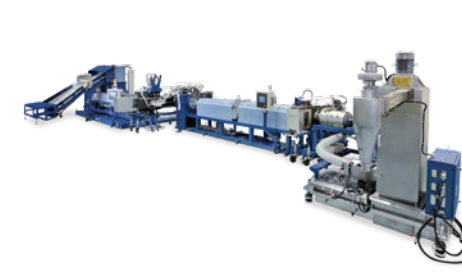
スリッター



ヤーンワインダー



再生ペレット製造装置



社会のニーズを見つける

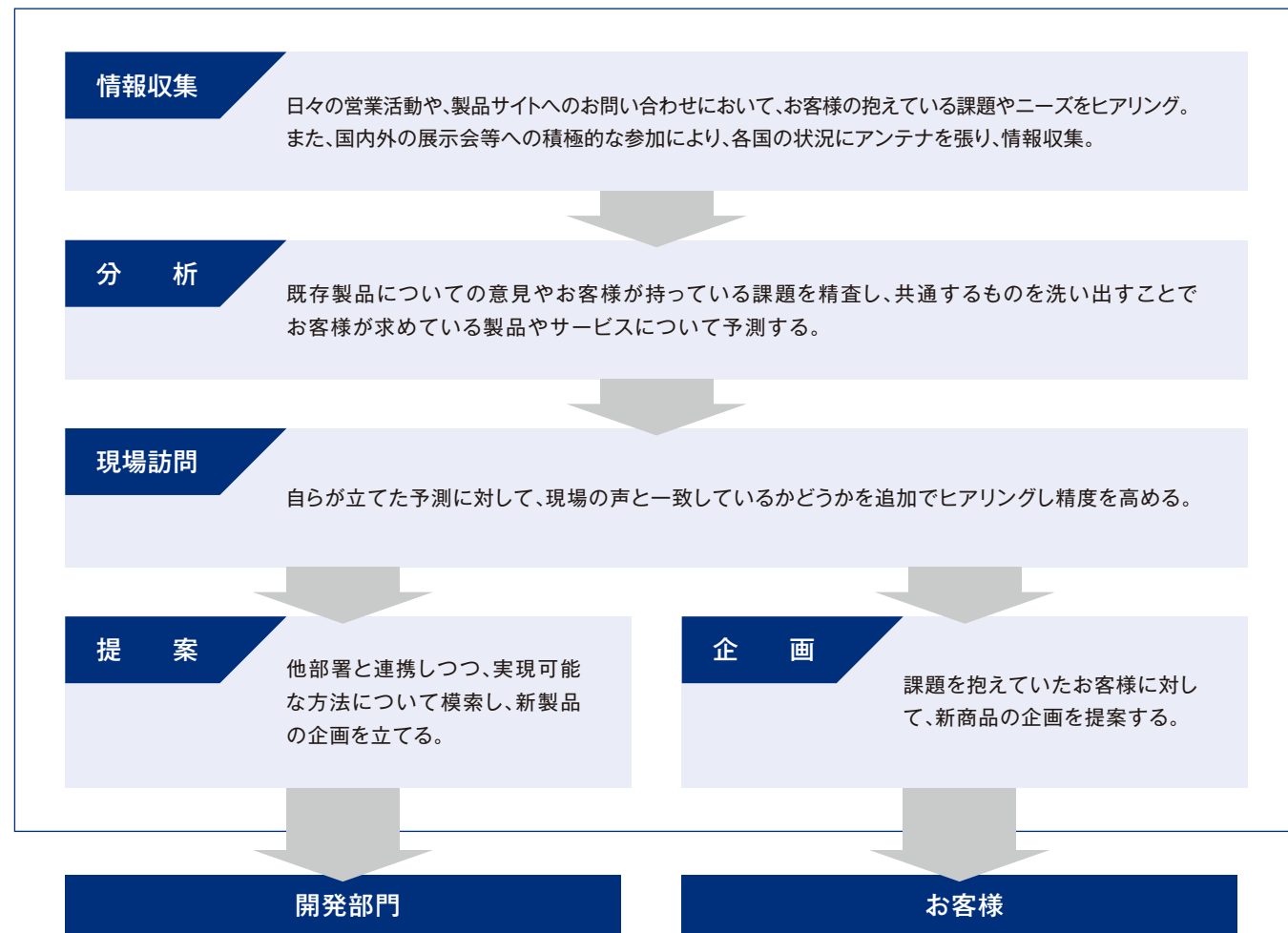
開拓力

新たな用途開発につなげる

当社製品は、人々の生活から産業活動まで、あらゆるシーンで活躍しています。実際に製品が使用されている現場に出向き実態を理解することで、新たな用途開拓に繋がっています。

開発や製造のノウハウを活かしたマーケットの開拓

自社に精通した営業部門であることが当社の強みの一つです。営業部門には、開発や製造に携わっていた社員が多く在籍しています。そのため、世の中に存在しない製品を求められた時でも、萩原工業で実現できるかどうか、迅速に判断することができます。



積極的な展示会出展

製品の展示会に積極的に出展することで、マーケットの開拓を行っています。国内だけではなくアジア、欧米・南米各国等、海外の展示会にも出展しており、それをきっかけにした引き合いも多く、着実に実績を上げています。社会のニーズを見つける「開拓力」を実践的に培うため、若手社員も積極的に参加しています。



2023年の主な出展展示会

【国内】

- ギフト・ショー春2023
- [関西]フィルムテック ジャパン(高性能フィルム展)
- 47都道府県の見立てのプロダクト展
- JAPAN PACK 2023 日本包装産業展
- サステナブル マテリアル展
- おかやまテクノロジー展(OTEX)2023
- ハイウェイテクノフェア2023
- JAPAN DIY HOMECENTER SHOW 2023
- エコプロ2023
- 建材・住設EXPO2023
- IPF Japan 2023

【海外】

- CHINAPLAS 2023 (中国)
- Plastics & Rubber Indonesia 2023 (インドネシア)
- IPF Bangladesh 2023 (バングラディシュ)
- Propak Asia 2023 (タイ)
- Pack Print Plas Philippines 2023 (フィリピン)
- Expomin 2023 Chile (チリ)
- World Tunnel Congress 2023 Athens (ギリシャ)
- Rapid Excavation and Tunneling Conference (アメリカ)
- Australian Tunnelling Society Conference (ニュージーランド)

各国に広がるネットワーク

14カ国
28拠点

積極的な海外展開により、萩原工業グループの製造・販売拠点は世界14カ国まで増えました。言語や生活習慣はもちろん、商流や物流にもそれぞれの国で違いがあるため、各国でのマーケティングを活かして市場の開拓を行っています。密に連携を取りつつ、それぞれの国や地域に合ったマーケティングを行っています。



Hagihara Industries Yguazu SRL (パラグアイ)



PT.Hagihara Westjava Industries (インドネシア)



萩華機械技術(上海)有限公司(中国)



Hagihara Industries (Thailand) Co.,Ltd.(タイ)

必要とされる製品を形にする

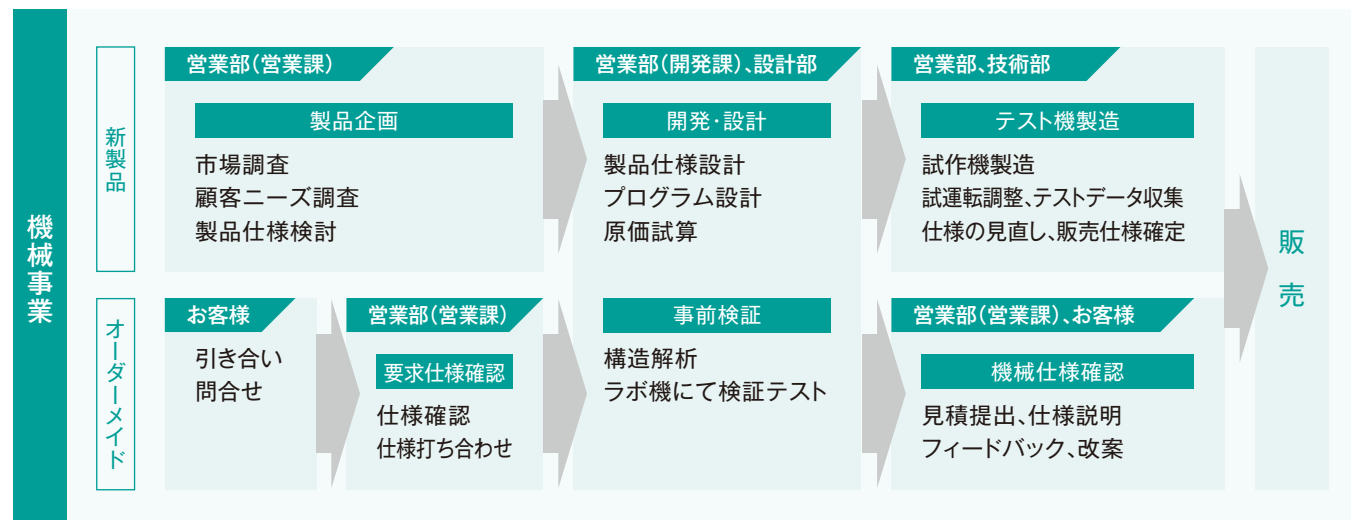
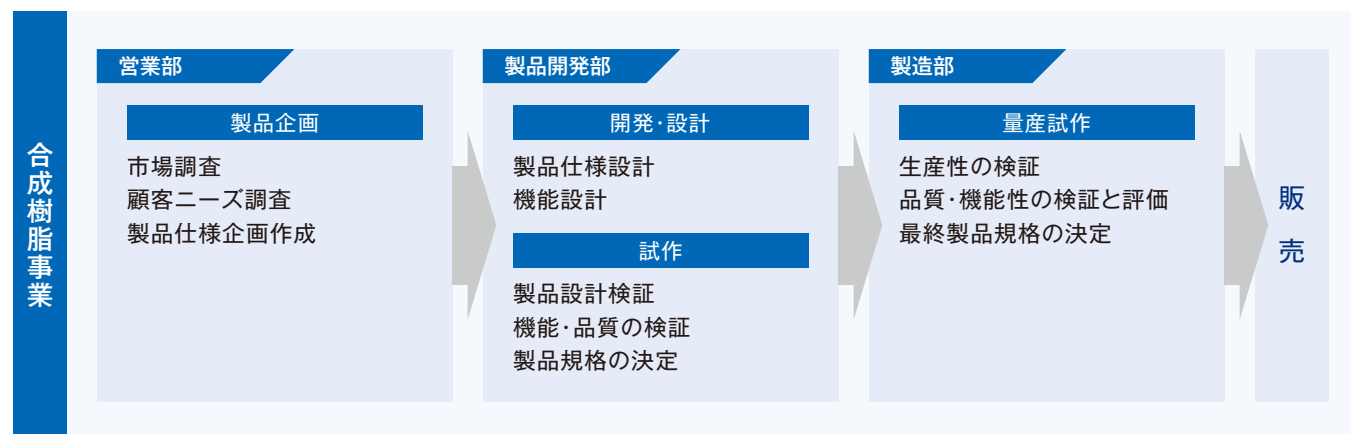
具現化力

市場のニーズに応える製品の具現化力

社会が求める製品を提供するためには、固定概念にとらわれない製品開発が必要です。当社では新規製品の開発を積極的に行い、新しい市場や用途を開拓しています。

ユーザーやマーケットの目線で行われる萩原工業のものづくり

当社ならではの強み。それは、ブルーシートを一貫生産する「合成樹脂事業部門」、スリッターなどの産業機械を製作する「エンジニアリング事業部門」、製品評価を行う「開発部門」が自社内に全てあることです。難しい課題には三位一体で取り組むことで、新たな製品・機能などを具現化し、市場のニーズに応えています。



国内外の事例

市場と技術をつなぎ合わせるのは、製品です。国内外問わず、社会が求めている機能を製品として具体化することで、市場のニーズに応えることができます。また、新しい市場を開拓することもできるのです。

国内

「ターピー ライトクリアメッシュ」で
現場を明るく安全対策もクリア！

建設・土木工事で仮設足場に取り付ける養生シートは落下物が現場外に飛散するのを防ぐために必須ですが、足場内が暗くなる悩みがありました。そこで開発されたのが、「ターピー ライトクリアメッシュ」。高い透明度を持たせることで優れた採光性を実現。外光を取り込み、現場を明るくすることで視界を改善し、安全性UP。道路に面した現場に使用すれば死角が減少し歩行者や車両の安全を確保できます。まさに現場の悩みをクリアにする一品です。

炎天下からパッケージの損傷を守る
「ターピー 遮熱シート スノーテックス」

肥料を製造するメーカーの悩みが炎天下の猛暑対策。出荷前の肥料は屋外で一次保管されており、汚れ防止に使用するのはパレットカバー。しかし猛暑でカバー内が高温化し、肥料袋のプリントが溶けて剥がれ落ちる問題が続発。そこでご提案したのが「ターピー 遮熱シート スノーテックス」。シート表面にある無数のマイクロボイドが日光を乱反射させ温度上昇を抑制。プリント剥がれの問題はなくなり、綺麗な状態での保管を可能にしました。

海外



ポーランドにて、ストラクチャー用途に初採用

ポーランドで初めてストラクチャー用途に採用されました。66m × 30mの牛舎用で、8棟の施行が完了し、計26棟を施工予定です。ブロック作りからPVC、PVCからポリエチレン製の当社シートに変更されました。当社の技術により、①着着強度が高く丈夫、②3.6mの広い幅で加工コスト削減、③軽くてハンドリングが容易 といったベネフィットを提供いたしました。



Hagihara Industries Yguazu SRL 完成

パラグアイに、南米地域初のバルチック生産拠点「Hagihara Industries Yguazu SRL (ハギハラ・インダストリーズ・イグアス)」が完成しました。2023年9月19日には、日本国大使や現地政府要人をはじめ多くの来賓のご臨席の下、竣工式が盛大に開催されました。今後は、成長著しいブラジル市場への製品供給をはじめ、巨大な南米共同市場(メルコスール)の経済補完協定を活用し、さらなる販路拡大に取り組めます。



SUSTAINABILITY

近年、プラスチックに係る様々な環境問題に対応していくため、資源循環を加速していくことが求められています。萩原工業はプラスチック製品メーカーとして、ブルーシートを環境配慮型製品へ変えていく取り組みを進めています。

水平リサイクルプロジェクト

Re VALUE +

「Re VALUE+（リバリュープラス）」とは、萩原工業とJ&T環境株式会社が提携して取り組む、使用済みブルーシートを回収し、新たなブルーシートを製造する水平リサイクルプロジェクトです。

現在、廃ブルーシートの多くは焼却処分され、一部は再生ペレットにリサイクルされていますが、品質の問題からカスケードリサイクルに留まっています。そこで昨今、水平リサイクルへの関心が高まっています。

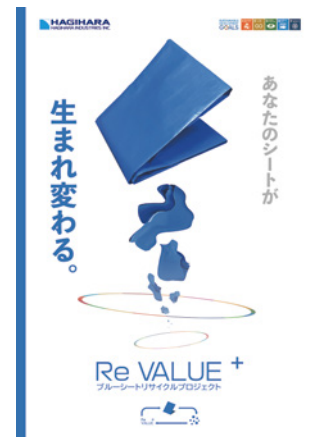
国産ブルーシート製造大手の萩原工業と、廃棄物の回収ネットワークとリサイクル技術を有するJ&T環境は、ブルーシートの循環スキームを段階的に構築し、廃ブルーシート年間5000トン「Re VALUE+」の対象として回収、リサイクルすることを目標としています。



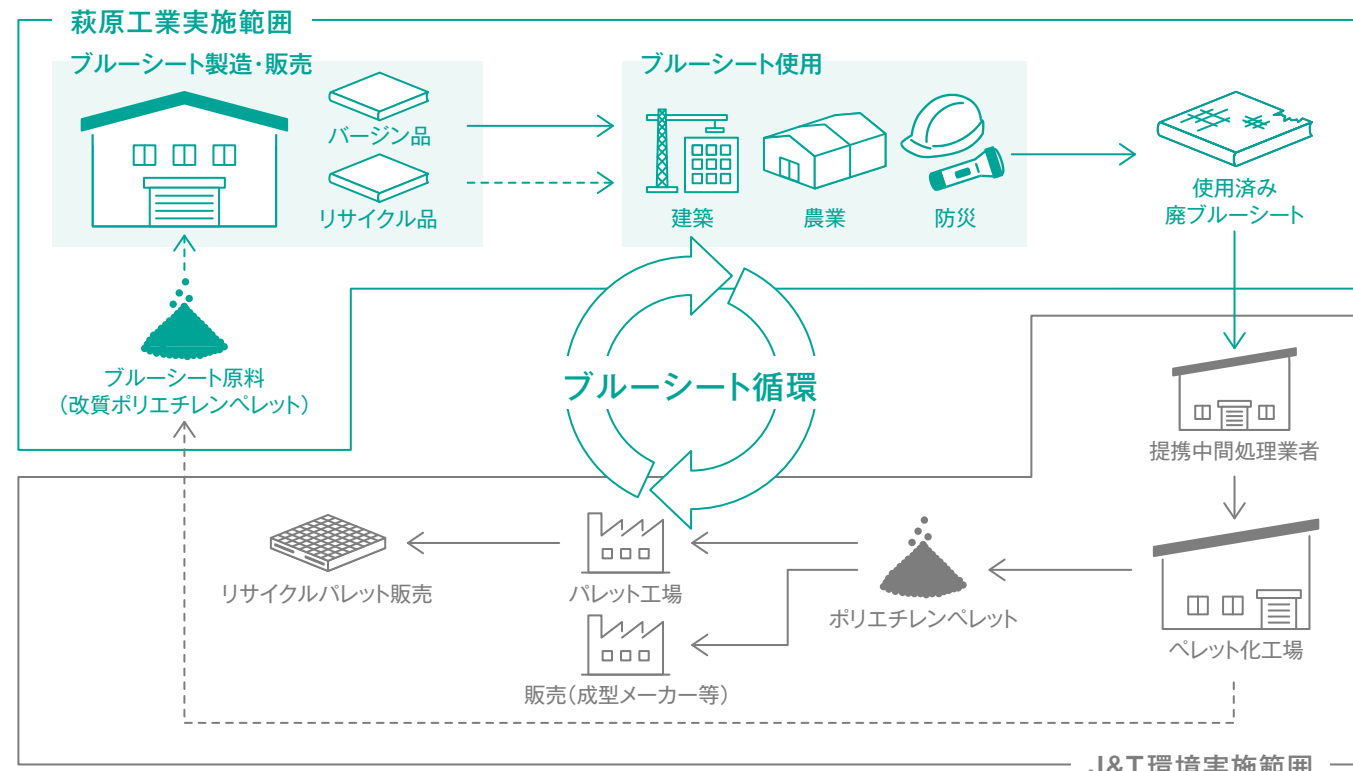
廃ブルーシート



新品ブルーシート



ブルーシート水平リサイクル「Re VALUE+」スキーム



凡例：実線 第一段階（一部実施済） 点線 第二段階（将来予定）

Re VALUE+ 製品の活用例

「Re VALUE+」のブルーシートが「海遊館」の特別企画で展示

2023年7月14日から、2024年1月15日まで海遊館で開催された特別企画「スマホをかざすと中がのぞける!?「BLUESEAT」」において、「Re VALUE+」により作られた当社製再生ブルーシートが使われました。

リニューアル工事中である、「グレート・バリア・リーフ」水槽の工事中壁面にブルーシートを張り、そこに描かれた生き物ARマーカーを読み取ると魚たちが泳ぎまわるバーチャル体験が味わえます。メディアにも紹介され、大変好評いただきました。



ターピー Re VALUE+ シート #2500

「Re VALUE+」では、十分な品質を確保した上で、使用済みブルーシートから作られた再生原料を25%以上配合した「ターピー Re VALUE+ シート #2500」を製品化しました。更に、エコマークの認定基準に適合しているとして、公益財団法人日本環境協会よりエコマークの認定を受けました。

住宅メーカーのライフデザイン・カバヤ株式会社と「ブルーシート水平リサイクルに関する協定書」を締結し、建築現場で使用した当社製ブルーシートを回収し、ブルーシートに製品化、再度ライフデザイン・カバヤが使用する循環システムを継続して行っております。将来的には2022年4月より施行された「プラスチック資源循環促進法」に則した製品開発を目指します。

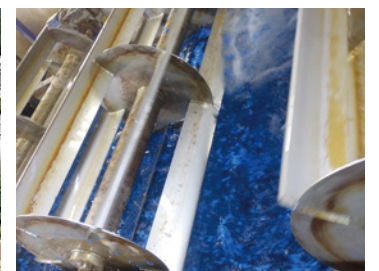


さらなる環境配慮型プロダクトへの刷新

プラスチック製品リサイクルに向けた廃材洗浄技術の開発

国立大学法人長岡技術科学大学、同大学発ベンチャー企業の株式会社バンタレイ及びJ&T環境株式会社と、「プラスチック製品リサイクルに向けた廃材洗浄技術の開発」に関する共同研究を継続しています。

本共同研究の目的は、使用済みプラスチック製品を回収・粉砕した後のプラスチック片を効果的に洗浄するための技術開発と評価するための基準/規格の構築、洗浄装置の製造ですが、試験用洗浄ラインの完成に向けて、洗浄で使用する大量の水の再利用に向けた洗浄水濾過技術に関して、機器選定に必要な実験や評価を共同で進めています。



洗浄試験の様子

プラスチックリサイクルに関する共同開発

東洋インキ株式会社、相川鉄工株式会社と共同開発契約を締結いたしました。

本共同開発の目的は、それぞれが保有する素材、機械およびプロセス等技術を通したプラスチックの洗浄・脱墨・異材質分離・再生等についての技術開発を共同で行うことです。

東洋インキは、インキ・ラミネート接着剤国内シェアNo.1化学メーカーとしての素材技術と剥離脱墨パイロットプラント実証に基づくノウハウを、相川鉄工は、製紙業界で培ったリサイクルファイナー（叩解装置）や古紙脱墨、異物分離などのノウハウを、萩原工業は、ブルーシートの水平リサイクルで培った高度濾過、調質・改質技術等のノウハウと再生ペレット製造装置等のリサイクル機器及びエンジニアリング技術を活かします。

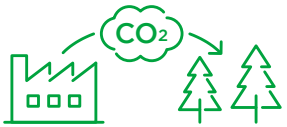


ENVIRONMENT

萩原工業グループは、環境に配慮した製品・技術・サービス・企業活動を通じ、社会の持続可能な発展に貢献するべく、「脱炭素」、「循環経済」、「分散・自然共生」という多角的な切り口によるアプローチでSDGsにも取り組んでまいります。

萩原工業グループの環境経営

1



2050年カーボンニュートラルの実現、新たな2030年度の削減目標の達成に向けて、環境負荷を軽減し、脱炭素化を目指します。

2



プラスチック資源循環を促進し、「循環経済（サーキュラーエコノミー）」への移行の促進を目指します。

3



自然共生、レジリエントな社会・地域づくりに向けて、気候変動対策と防災・減災対策の効果的な連携を目指します。

環境経営の取り組み

私たちは、環境経営を推進するサステナブル企業として、1.気候変動への対応、2.循環経済への対応、3.環境に配慮した製品の開発、4. 防災・減災対策にメーカー（つくる責任）として取り組みます。

環境経営 目標 2025

（2023年10月期から2025年10月期までの3カ年中期経営計画の期間中）

目標達成に向けての取り組み

2023年(実績)

目標値

気候変動・循環経済への対応及び環境配慮の高い製品の開発

水平リサイクルシステム「Re VALUE+」再生ブルーシートのリサイクル率の向上



25%

エコマーク認定の25%達成

25%以上

エコマーク認定の25%を目指す

気候変動・循環経済への対応及び環境配慮の高い製品の開発

エコマーク認定商品・エコマーク認定商品の販売量



113%増

300%増

循環経済への対応及び環境配慮の高い製品の開発

高品位樹脂再生プロセス「GXライン」再生ペレット製造装置の販売額



3.0%減

30%増以上

気候変動への対応と防災・減災対策

地方公共団体・建設業協会等との防災協定の締結件数

20件
(+4件)

26件

環境に配慮した製品の開発

ターピー

ターピー Re VALUE+ シート #2500

2023年4月、使用済みブルーシートから作られた再生原料を25%以上配合した「ターピー Re VALUE+シート #2500」が公益財団法人日本環境協会よりエコマークの認定を受けました。



ターピー エコフレンドシート

再生原料 60%以上使用、さらにポリエチレン単一素材でリサイクルが容易なエコマーク認定ブルーシートです。



再生原料
60%
以上使用



「エコマークアワード2022」
優秀賞受賞

「Re VALUE+」達成のため「ターピー エコフレンドシート」を開発、旗艦製品としたことで受賞に至りました。引き続き環境配慮型ブルーシートの普及に努めます。



水平リサイクルのための設備開発

プラスチック製品における水平リサイクルを可能としたGXライン。プロセスを研究開発するうえで、造粒しながら調質や改質を行う技術を確立しました。そしてより高品質なりサイクル原料を得るために、造粒前の洗浄装置の開発に取り組んでいます。従来設備に比べ大幅な洗浄力の向上と、汚水廃棄の大幅な削減を可能とします。

バルチップ

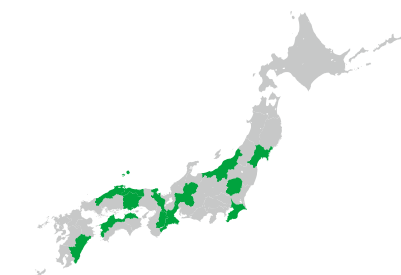
鉄筋の代わりにバルチップを使用することで、CO₂の排出量を78%も削減することが可能です。（製造と輸送時にかかるCO₂排出量をISO14025に基づき計算）

防災・減災の取り組み



高耐候・高品質

当社製ブルーシートは、海外製に比べ耐候性に優れており、長期間の使用が可能です。自然災害が多い日本で、防災・減災用途としても活躍しています。



災害協定

災害時に必要な物資の供給を迅速かつ円滑に行えるよう、20の自治体等と災害時におけるブルーシート・土のう袋等の供給に関する協定を締結しています。（2023年10月31日現在）



建設業協会との連携

災害時の窓口を地元の建設業協会に一元化し応急活動に対応する協定を締結しています。協定企業の強みを活かし、災害時に備えた機能的で機動力のある新たな協力体制を構築します。

SOCIAL

萩原工業グループでは、地域社会との連携を通じ、企業価値を高める活動を推進しています。
さらに、社員一人ひとりが個々の能力を最大限に発揮し、いきいきと働ける環境づくりを目指しています。

地域・子どもの支援



BRIDGE OKAYAMA

西日本豪雨災害の復興支援として、被災地で使用されたブルーシートを回収、トートバッグに再利用し、売上を復興に役立てる活動に参加しました。
【寄付金総額】
倉敷市：1,067,523円、総社市：1,067,524円



BRIDGE SETOUCHI

BRIDGE OKAYAMAの活動終了後、当社の製造工程でロスになるブルーシートをトートバッグに再利用し、売上の30%を防災・減災活動の基金として役立てる活動を開始しました。



「倉敷限定!女性ドック」の受診特典

倉敷成人病健診センターと共同製作した「KMCオリジナルBRIDGE SETOUCHIブルーシードバッグ」が女性ドックの受診特典として採用されました。受診者数(バッグ配布数)×200円が防災・減災活動の基金として役立てられます。



工場見学の受け入れ

当社は工場見学の受け入れを積極的に行っています。企業理念・安全・人材育成等について、異なる業種・立場の方々と意見交換を行い、新たな価値を共に創出しています。



学校との連携

津山工業高等専門学校と包括連携・協力に関する協定を締結しています。双方が有する人材・物的資源を有効に利用し、地域の活性化と産業の発展を図ることを目的として、研究や教育等の面で連携しています。



防災イベントへの参加

大規模な防災訓練や防災について楽しく学ぶイベント等に参加しています。当社の製品が防災や災害時にどのように役立つのか、展示や体験を通して知っていただくことを目的としています。

働き方改革応援製品の開発



工事現場で設置される防音シートの開発を重ね、従来品より70%軽量化に成功しました。作業員の負担軽減に繋がっています。



透明性(視認性)・採光性・軽量性に優れたメッシュシート。足場内が明るく、工事作業環境の改善や事故防止の安全対策に役立っています。



建設業界内の人材不足が叫ばれる中、バルチップを使用することで鉄筋が不要になり、工期短縮、人材不足対策に寄与します。

働きやすい職場づくり

社員に優しい職場環境



ストック・オプション

社員の中長期的な業績と企業価値向上に対する貢献意欲や士気をより一層高めるため、ストック・オプション(新株予約権)を発行しました。



なごみ保育園

社員が安心して働ける環境を構築するため、0歳(3か月)～5歳までを対象とした12名定員の小規模保育園を、2018年6月に開園しました。



社員食堂

社食代の半分会社負担のため、低価格で出来立ての食事が摂れます。食堂は部署を超えたコミュニケーションの場でもあり、モチベーションアップに繋がっています。

ダイバーシティ



女性の社外取締役

創業家以外から初の女性取締役として2019年に就任しました。視点の多様性が広がり、審議の質の向上に繋がっています。



女性入社率の増加(新卒)

約10%だった女性入社率を過去5年で約30%まで増加させました。女性が活躍できる環境づくりを進めています。



障がい者雇用

障がいがある社員でも、最大限に能力を発揮して働くことのできる職場環境を目指しています。(障がい者雇用率:2.65%)



外国籍人材雇用

外国籍の社員も正社員として採用し、グローバル化に対応した人材育成を進めています。

社外からの認定・評価



「日本でいちばん大切にしたい会社」大賞 経済産業大臣賞受賞

リストラをしない経営姿勢や正社員雇用率の高さ、社長室に掲示されている全社員の顔写真、社員の誕生日に社長のメッセージカードを添えたバウムクーヘンをプレゼントする取り組み等が評価され、受賞に至りました。



バースデーカード



社長室に掲示された顔写真



「倉敷市男女共同参画推進事業所」認定

企業主導型保育所の設置、時間単位有給休暇制度の導入、健康経営の推進等が評価されました。



「おかやま子育て応援宣言企業」岡山県知事賞受賞

男性の育休取得の促進、子育て世代意見交換会の開催、企業主導型保育所の運営等が評価されました。



「令和5年度倉敷市保健福祉功労者」表彰

企業主導型保育所の設置・運営、地元小学生等の工場見学受入れ、地元のスポーツ大会への協賛等が評価されました。

中期経営計画

2022年12月に策定した中期経営計画「飛躍に向けた原点回帰」は、前計画の主要戦略を引き続き着実に実行することによる収益拡大と、資本効率を意識した財務戦略を2本柱とし、企業価値の向上を目指しております。

■ 中期経営計画の位置付け

2019年12月に発表した中期経営計画「UPGRADE For Next 60」が大きな未達に終わったことを踏まえ

①未達に終わった目標を達成する。

②新たな財務戦略を実行する。

ことを主軸に、次なる飛躍に繋げていく3ヶ年の中期経営計画です。

【中期経営計画 スローガン】

飛躍に向けた 原点回帰

v(victory)字回復、
そしてJ(Jump)字成長へ、「v for J」

victory

事業環境に
対応するための
v字回復戦略

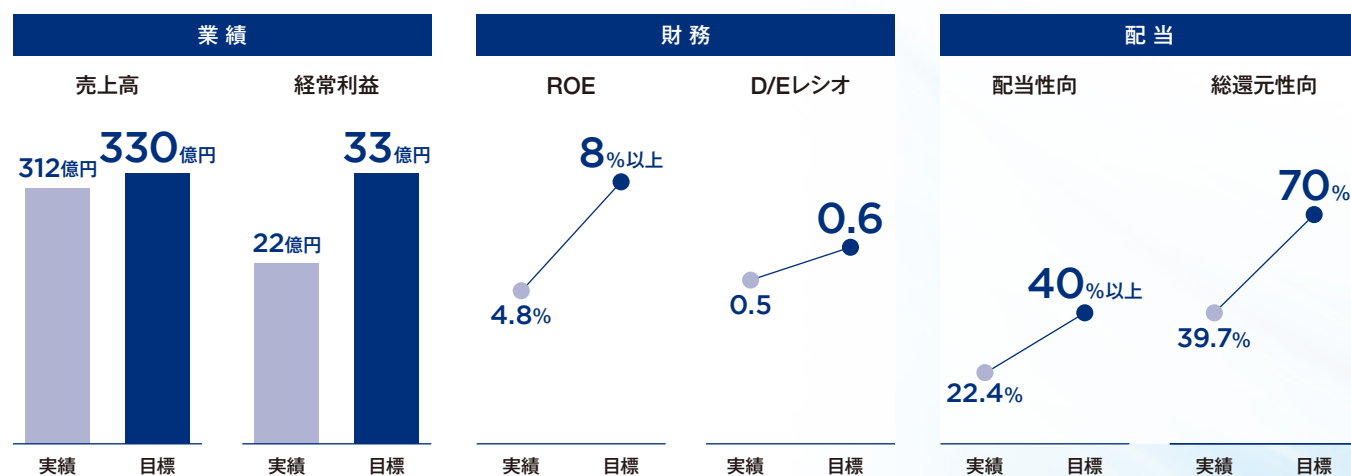
Jump

成長軌道に
乗るための
Jump戦略

■ 経営目標数値

未達に終わった前計画の収益目標を踏襲し、v字回復・J字成長戦略を通じて確実な目標達成により次なる成長へのスタートラインとします。また新たに財務目標を設定し、資本効率の向上を図ってまいります。

実績値(2023/10期)と目標値(2025/10期)



事業環境に対応するための v字回復戦略

1 適正な価格の実現 そのための製品競争力強化

原材料価格やユーティリティコストの高騰を確実に製品価格に反映させるために、その価格に見合う価値をお客様にお届けできるよう、製品の品質や使い勝手を向上させるとともに、競合他社との価格競争に巻き込まれないよう、当社独自の価値を製品に付加してまいります。



2 最適な生産・物流体制の構築

▶ 南米でのバルチップ生産開始

P28

パラグアイでのバルチップ生産を開始し、主要需要地である南米への安定供給、リードタイム短縮、海上運賃高騰リスク軽減などを実現します。

▶ 中国でのシート生産機能の

国内移転

2023年6月に中国子会社青島萩原工業有限公司の清算が終了し、同国でのシート生産機能の国内移転を完了しました。

▶ エンジニアリング事業の

最適生産

機械製品のサプライチェーンの見直しを図り、納期の短縮とコスト変動の防止を進めております。

成長軌道に乗るための Jump戦略

1 技術を、磨く。

▶ 水平リサイクル実現のための技術開発

▶ 環境、リサイクル需要への対応 P19



2 製品を、広げる。

▶ シート、土のうのブランド再構築 P16

▶ 自治体、建設業協会との防災協定締結 P20



3 市場を、創る。

▶ B to C 分野の強化

▶ 海外市場開拓

▶ サーキュラーエコノミーの実現 P17

▶ シート加工の強化による高付加価値化



4 社員の成長と幸福を、伸ばす。 P22

▶ 製造現場の省力化

▶ 子育てサポートの強化とシニア社員の活躍促進



経営資源

萩原工業グループでは、経営資源を最大限に活用し安定した経営を維持するために、自社の経営資源を把握し、業務の効率化や最適化を図っております。

また、以下の分野に経営資源を投入し、さらなる進化・成長に向けても新しい取り組みを行っております。



環境への配慮と海外展開

環境配慮・グローバルな販売拡大とものづくり変革

合成樹脂事業部門長 犬飼 正樹

2023年10月期は原材料価格等の価格転嫁が進んだ結果増収増益となりましたが、販売数量では大きな伸びはなく厳しい状況は継続しております。そのような状況の中、海外マーケットでの現地生産への着手を進めてまいりました。バルチップの南米市場を狙ったパラグアイ新工場の稼働開始、果物・野菜包装用に使用されるメルタッククロス生産を目的としたアメリカ新工場（テキサス州）の設立を行いました。また国内では笠岡工場が完成し、新たなスタートの準備の年でもありました。

2024年ものづくりにおいては、新たに笠岡工場を加えたものづくり変革元年と位置付けます。国内・海外工場の垣根を越え、どこで何を生産するかをゼロベースで考え、ものづくりのベストプロダクトミクスを追求していきます。

販売場面では、海外マーケット拡大を目的に新たに国際営業部を立ち上げ、北米、EUを中心に新規顧客開拓を強化しております。国内では、今期中にブルーシートのリサイクル設備の稼働を開始しRe VALUE+戦略によるリサイクル需要への対応に本格的に着手します。また5mの大型印刷機を導入しブルーシートの特注対応に印刷という機能を加えた提案を開始する等、環境配慮を意識しもう一步踏み込んだ提案を行える事業運営に取り組んでまいります。



製品展開の拡大

IHI 関係会社より金属箔スリッター技術譲受

エンジニアリング事業部門長 飯山 辰彦

スリッター関連事業の拡大を目的とし、2023年3月にIHI関係会社より「金属箔スリッター技術」を有償で譲受けました。

当社は事業の重要な柱の一つとして紙及びフィルム用スリッターの製造・販売を行っておりますが、新たに金属箔用スリッターに関する技術等を取得することにより、現在保有しているスリッター製造に関する各種ノウハウを活用しつつ製品の幅を広げることが可能になり、スリッター事業全体の一層の拡大・強化を目指します。

主な金属箔としては、銅箔とアルミ箔がありますが、広く普及しているリチウムイオン電池の正負極材や封止材料として需要が高まっている分野であります。61期内に既に1号機を受注しており、移籍した技術者を中心にIHI関係会社での精巧なものづくり手法を取り入れてまいります。

当社では技術的難度を理由にこの金属箔スリッターの分野に長年進出できておりませんでした。この技術譲受けを機会として、海外を含め広く販売を展開してまいります。



生産体制の強化

笠岡新工場 インクジェット印刷機導入による新規事業への展開

合成樹脂事業部門副部門長 藤田 学

2023年9月、イタリアよりインクジェット印刷設備durst PS500iを導入いたしました。最大の特長は、印刷幅が5mと国内でも稀有な印刷機であり、UVインクを採用したことにより従来難しかったオレフィン（ポリエチレン、ポリプロピレン）素材への印刷が可能となりました。

また、笠岡工場では印刷したシートを直ぐに加工でき、ワンストップでの生産が可能であることから、他社に比べて納期スピードが格段に速くなります。

2024年よりイベント、催事、建設工事などの市場へ、本格的な営業展開を行ってまいります。



海外展開

パラグアイ新工場の稼働

BarChip Inc. 代表取締役 CEO 萩原 佳明

コンクリート補強繊維「バルチップ」の製造拠点として南米パラグアイ共和国に子会社「Hagihara Industries Yguazu SRL」を2022年に設立、2023年よりブラジル・ウルグアイ・ペルーをはじめ南米周辺国への製品販売を開始しました。世界最大規模の発電量を有するイタイブ水力発電所からの電力を利用して、100%再生可能エネルギーでの事業運営を行なっております。

南米既存顧客への製品供給に加え、新たにパラグアイ国内の建築物においてもバルチップの採用実績が増えており、地の利を活かした市場開拓に手応えを感じております。

コロナ渦での世界的な物流の混乱は落ち着きましたが、中東問題によるスエズ運河閉鎖といった国際物流への影響は予断を許さず、今後も地産地消でのリスク回避に注力してまいります。



製造・営業の最適化

原点回帰と新規参入

東洋平成ポリマー株式会社 代表取締役社長 柴田 幸久

2023年9月期は、萩原工業グループとなり5年目の節目を迎え、製造・営業ともに“原点に戻る”をキーワードに、ゼロ視点での改善活動を強化し、筋肉質経営を推し進めた年でした。また、この1年間は原料価格、電気代の高騰を受け、製品への価格転嫁を強く推し進めてまいりました。

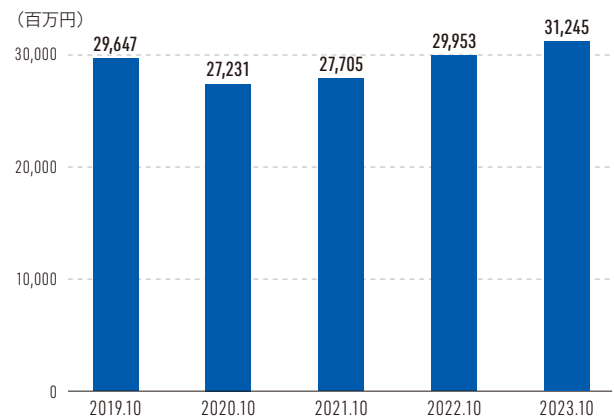
茨城工場のクリーンフィルム、福島工場の多層フィルムでは、新たなビジネス領域へ参入し、ポートフォリオの転換を少しずつ進める事ができた年でもあります。3工場では、一軸延伸機によるモノマテリアルフィルムの製造開発も進んできており、各方面から引き合いを頂戴しております。また、お客様と共に推し進めている循環型水平リサイクルビジネスも進展してきており、今後は環境にやさしい製品の拡販を推し進めてまいります。



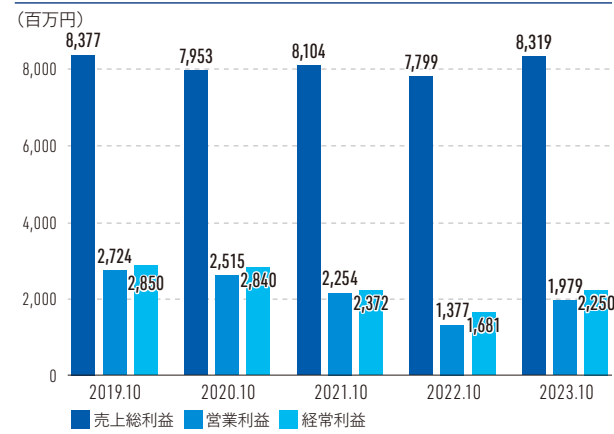
5カ年財務・非財務サマリー

財務

売上高 31,245 (百万円)

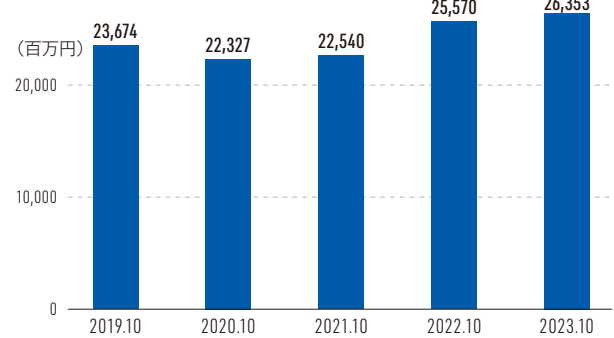


売上総利益 / 営業利益 / 経常利益

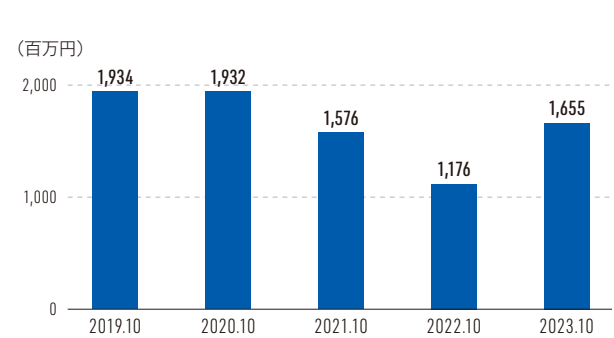


合成樹脂加工製品事業

売上高 26,353 (百万円)

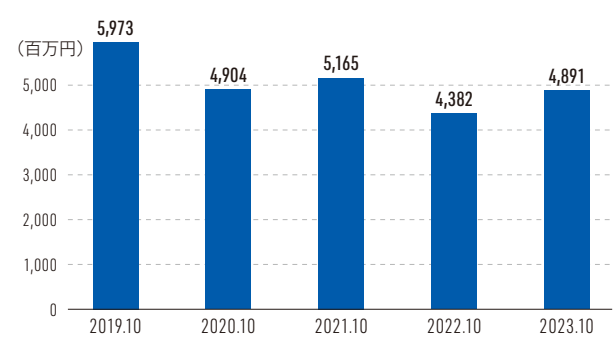


営業利益 1,655 (百万円)

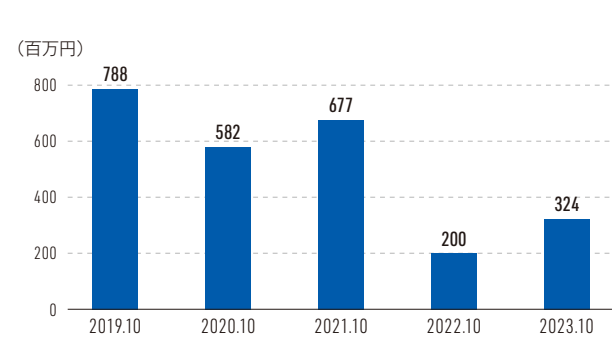


機械製品事業

売上高 4,891 (百万円)



営業利益 324 (百万円)

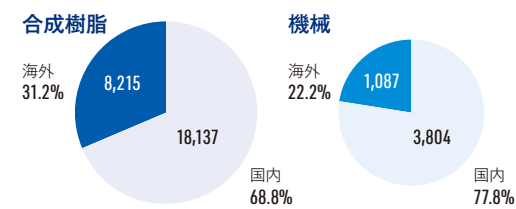


財務

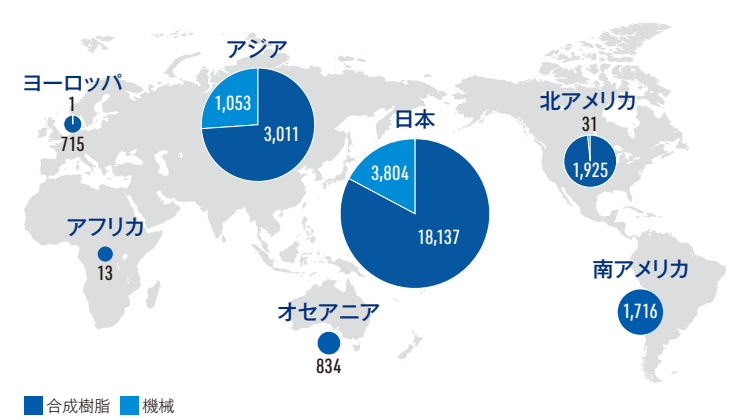
海外売上高 9,302 (百万円)



海外売上比率 29.8%



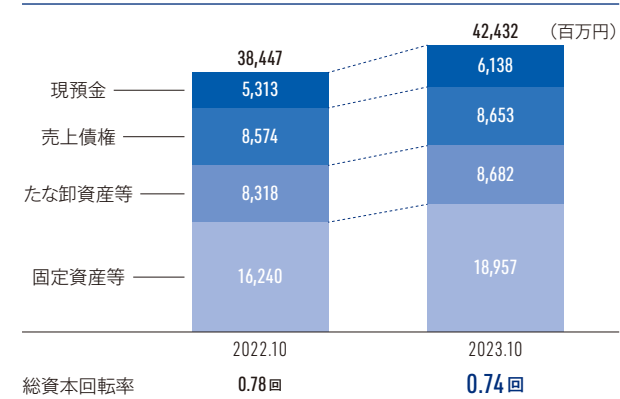
海外売上高



セグメント・子会社

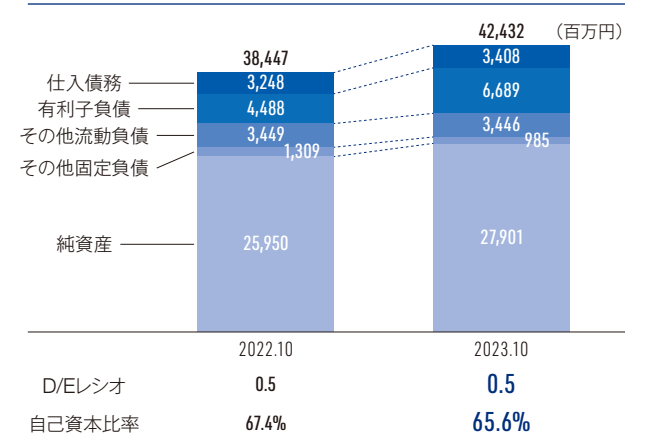
		2022/10		2023/10		増減	
		売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
合成樹脂	萩原工業	14,618	437	15,188	534	570	96
	日本ファブウエルド	375	12	408	-72	32	-85
	PT. HWI	5,294	282	4,591	73	-702	-208
	BarChip Group	4,152	408	4,476	308	324	-99
	バルチップ	1,663	459	2,057	958	393	498
	東洋平成ポリマー	4,306	86	4,226	103	-80	17
計		25,570	1,176	26,353	1,655	782	478
機械	萩原工業	4,323	187	4,807	272	484	85
	萩華機械技術(上海)	633	-32	668	43	34	76
	計	4,956	155	5,475	315	519	161

資産 42,432 (百万円)



総資本回転率 0.78回 → 0.74回

負債・純資産 42,432 (百万円)

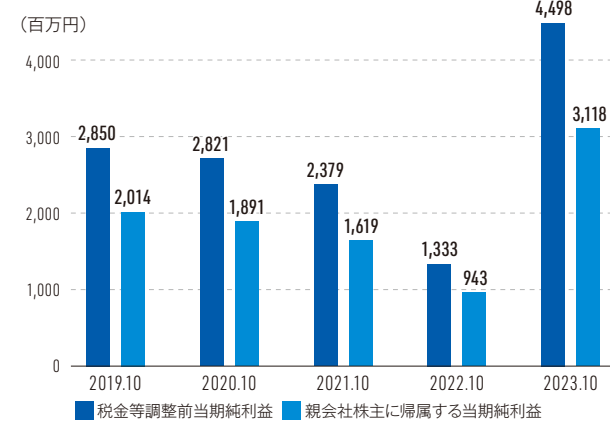


D/Eレシオ 0.5
自己資本比率 67.4% → 65.6%

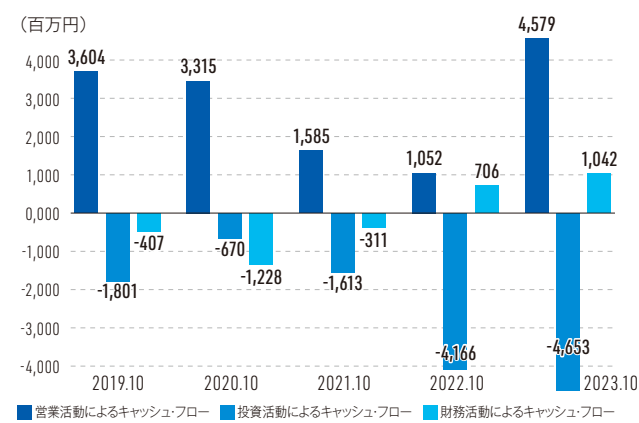
5カ年財務・非財務サマリー

財務

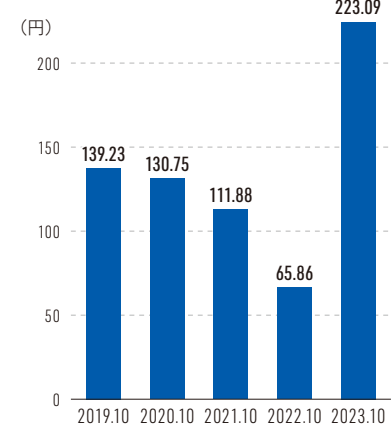
税金等調整前当期純利益 / 親会社株主に帰属する当期純利益



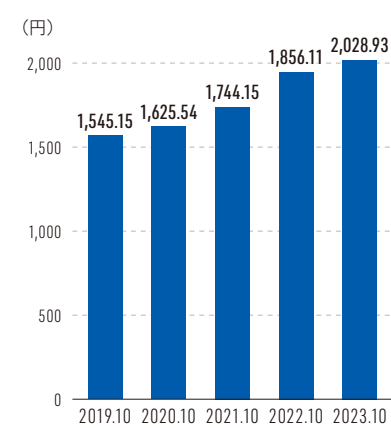
キャッシュ・フロー



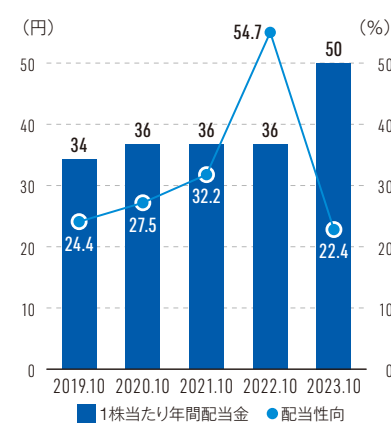
1株当たり当期純利益(EPS) 223.09 (円)



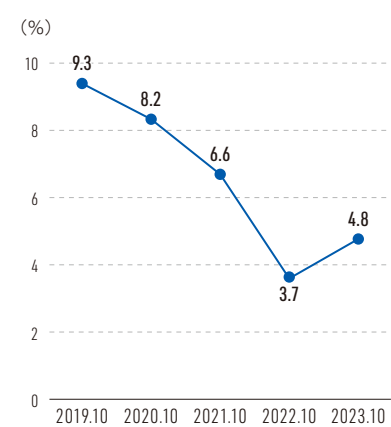
1株当たり純資産(BPS) 2,028.93 (円)



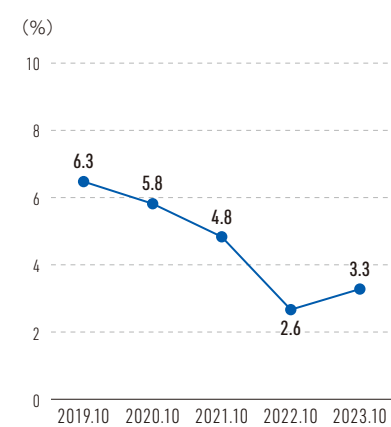
1株当たり年間配当金 / 配当性向



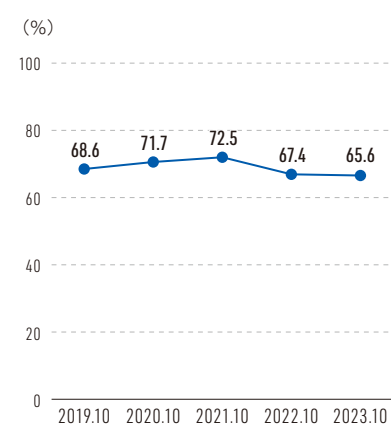
自己資本利益率(ROE) 4.8%



総資産利益率(ROA) 3.3%



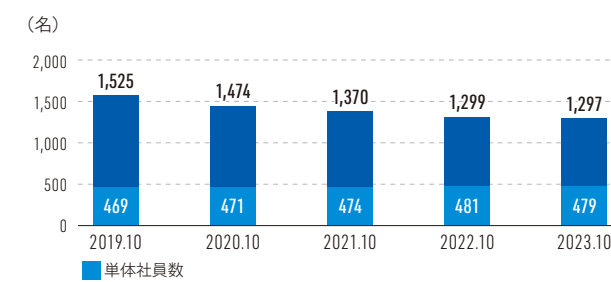
自己資本比率 65.6%



非財務

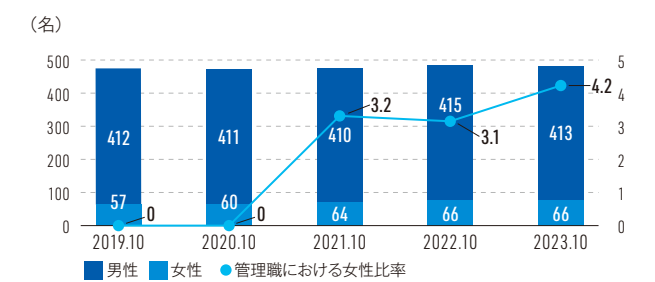
社員数(連結社員数 / 単体社員数)

1,297人



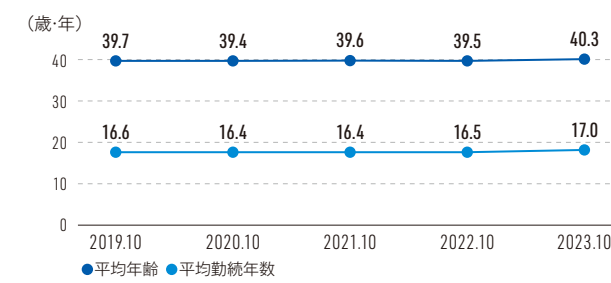
男女別社員数

男性 413人 / 女性 66人



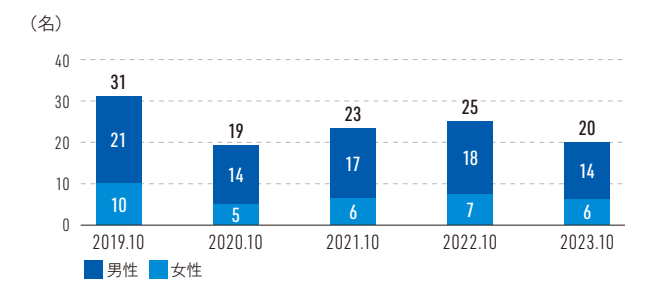
平均年齢 / 平均勤続年数

40.3歳 / 17.0年



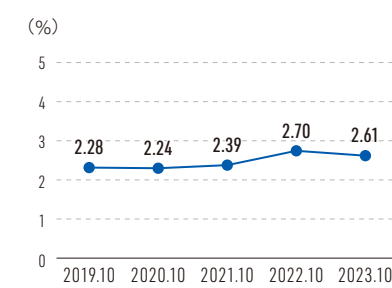
新卒採用者数

20人



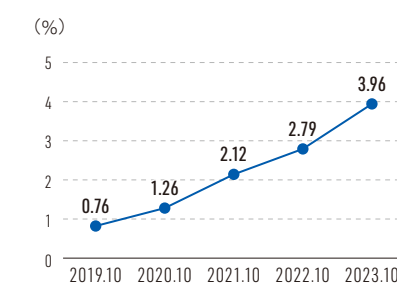
障がい者雇用率

2.61%



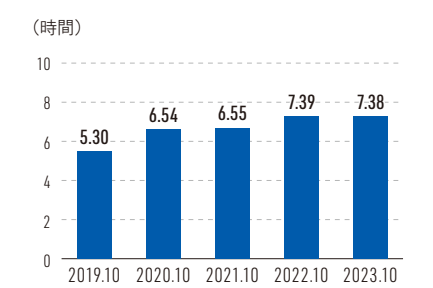
離職率

3.96%



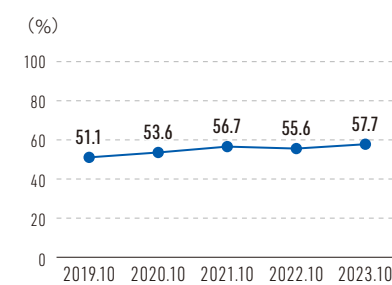
平均月間時間外労働

7.38時間



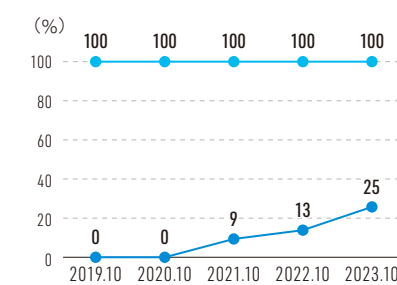
有給休暇取得率

57.7%



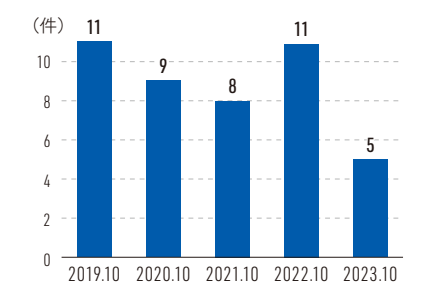
育児休暇取得率

男性 25% / 女性 100%

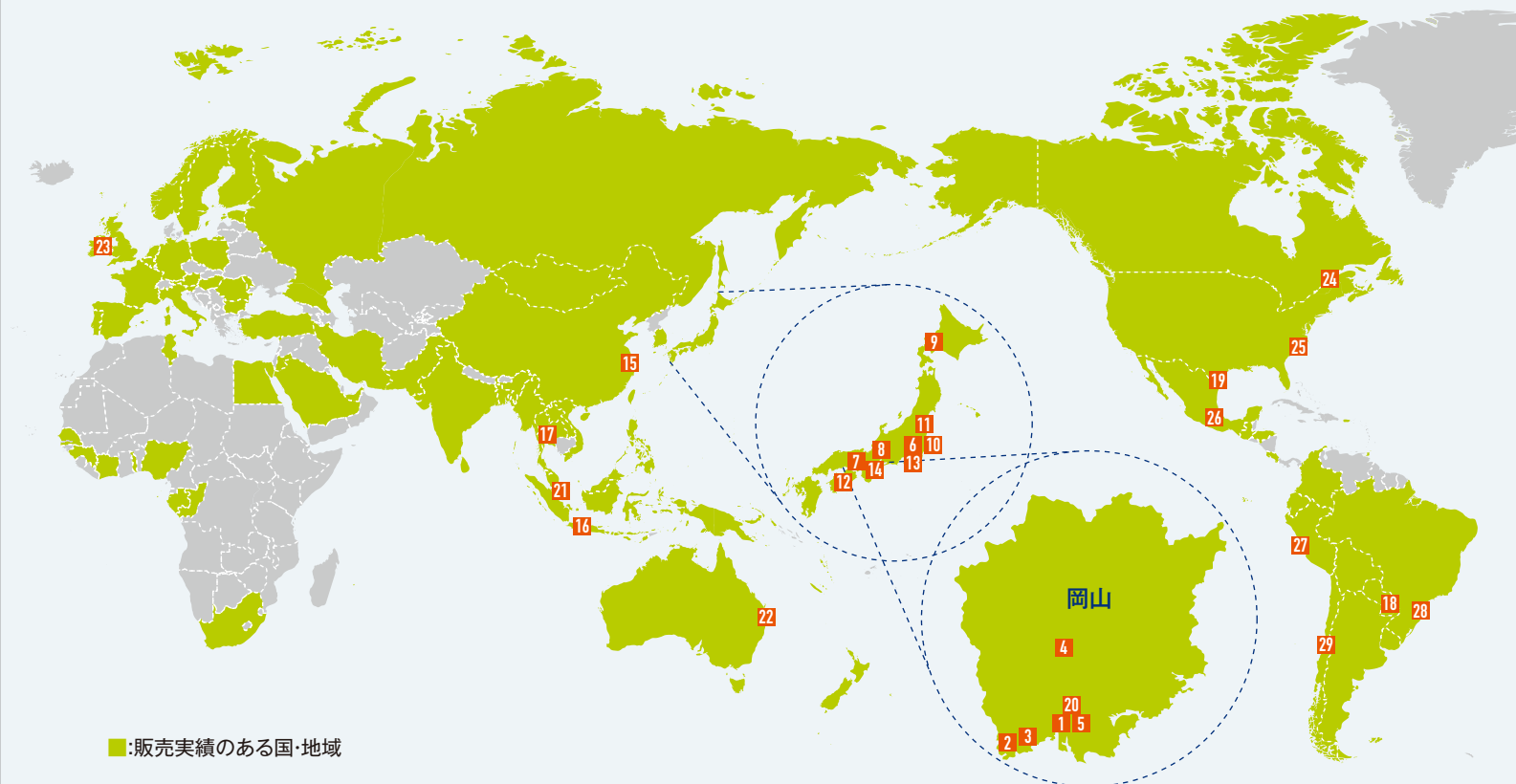


労働災害

5件



国内・海外拠点一覧



萩原工業

- 1 本社・工場
- 2 笠岡工場
- 3 里庄工場
- 4 賀陽工場
- 5 物流センター
- 6 東京支店
- 7 大阪営業所
- 8 東海オフィス
- 9 札幌営業所

子会社・海外拠点

- 10 東洋平成ポリマー株式会社 本社・工場
- 11 東洋平成ポリマー株式会社 福島工場
- 12 東洋平成ポリマー株式会社 高知工場
- 13 東洋平成ポリマー株式会社 東京営業所
- 14 東洋平成ポリマー株式会社 大阪営業所
- 15 萩華機械技術(上海)有限公司(中国/上海市)
- 16 PT.Hagihara Westjava Industries(インドネシア/ジャカルタ)
- 17 Hagihara Industries(Thailand) Co.,Ltd.(タイ/サムットプラカーン県)
- 18 Hagihara Industries Yguazu SRL(パラグアイ/シウダー・デル・エステ)
- 19 Hagihara Industries McAllen Corporation(アメリカ/テキサス)

- 20 BarChip Inc. [バルチップ株式会社](岡山県倉敷市)
- 21 BarChip Asia(シンガポール)
- 22 BarChip Australia(オーストラリア/ブリスベン)
- 23 BarChip EMEA(アイルランド/ダブリン)
- 24 BarChip Canada(カナダ/ケベック)
- 25 BarChip USA(アメリカ/ノースキャロライナ)
- 26 BarChip Mexico(メキシコ/メキシコシティ)
- 27 BarChip Peru(ペルー/リマ)
- 28 BarChip Brasil(ブラジル/サンパウロ)
- 29 BarChip Chile(チリ/サンティアゴ)

販売実績のある国・地域

ASIA	EUROPE	AFRICA
日本 中国 韓国 香港 台湾 バングラデシュ ミャンマー ラオス タイ ベトナム フィリピン マレーシア シンガポール インドネシア トルコ	ヨルダン イラン サウジアラビア ドバイ パキスタン インド スリランカ モンゴル HONG KONG スウェーデン ノルウェー フィンランド エストニア アイルランド イギリス オランダ ドイツ ポーランド ベルギー フランス オーストリア ハンガリー スロベニア ルーマニア	イタリア スペイン ポルトガル ブルガリア ロシア チュニジア セネガル ギニア コートジボワール トーゴ ナイジェリア ガボン コンゴ 南アフリカ
モリシャス エジプト		

(2023年10月31日現在)

株式情報

(2023年10月31日現在)

上場証券取引所	東京証券取引所 プライム市場
証券コード	7856
事業年度	11月1日から翌年10月31日まで
定時株主総会	1月
基準日	定時株主総会 10月31日 期末配当 10月31日 中間配当 4月30日
発行可能株式総数	36,000,000株
発行済株式総数	14,897,600株
単元株式数	100株
株主数	33,074名
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社

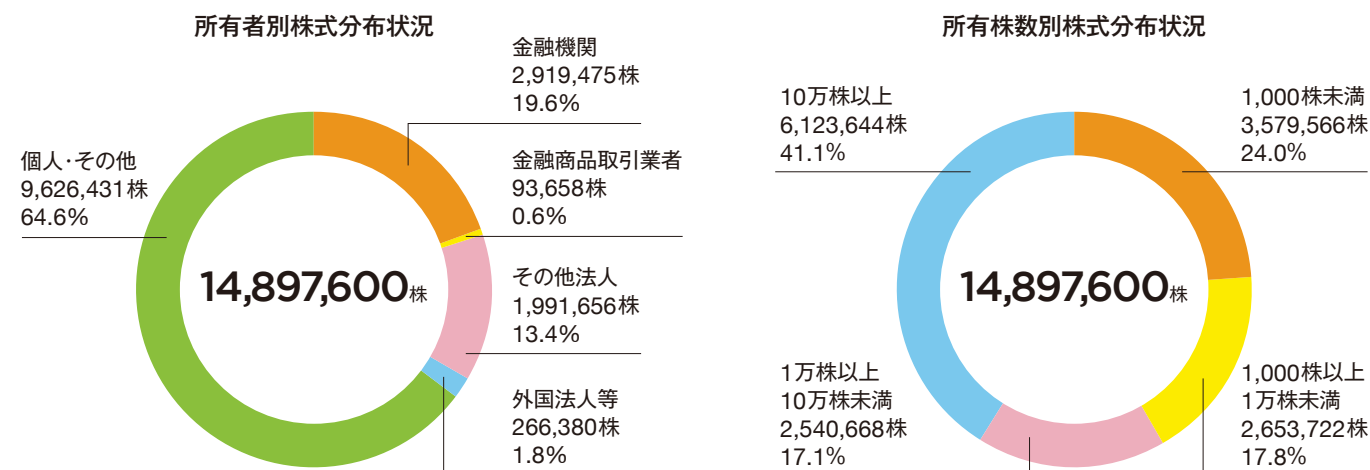
大株主(上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
萩原株式会社	1,435	10.38
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	1,319	9.54
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	599	4.33
萩原 邦章	537	3.88
萩原工業従業員持株会	460	3.33
萩原 賦一	200	1.44
株式会社広島銀行(常任代理人株式会社日本カストディ銀行)	200	1.44
株式会社三菱UFJ銀行	200	1.44
株式会社商工組合中央金庫	100	0.72
福山通運株式会社	92	0.67

(注) 1. 当社は自己株式1,071,698株を所有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
2. 持株比率は自己株式を控除して算出しております。

株式分布状況

(2023年10月31日現在)



会社概要

(2023年10月31日現在)

社名	萩原工業株式会社(HAGIHARA INDUSTRIES INC.)
本社	〒712-8502 岡山県倉敷市水島中通一丁目4番地 TEL.086-440-0860 FAX.086-440-0869
代表者	代表取締役社長 浅野 和志
設立	1962年(昭和37年)11月29日
資本金	17億78百万円
社員数	1,297名(グループ全体) 479名(単体)
主な事業内容	ポリエチレン・ポリプロピレンを主原料とした合成樹脂繊維「フラットヤーン」を用いた関連製品、およびフラットヤーン技術を応用したスリッター等、産業機械の製造・販売。



萩原工業ウェブサイト
<https://www.hagihara.co.jp/>



<https://www.hagihara.co.jp>